



山口亮一 ～当時の佐賀美術界の拠点をつくった～

山口亮一（1880-1967）は佐賀市出身、東京美術学校（現在の東京藝術大学）で洋画を学びました。卒業後は佐賀に戻り美術教師をつとめ、画家としても活躍。1913年には久米桂一郎や岡田三郎助らと「佐賀美術協会」を設立し、地元の美術活動の中心を築きました。展覧会を通して県内外の作家と交流する場を広げ、佐賀の美術界に「学び・発表・交流」の文化を定着させました。中学生には、故郷に根ざして仲間と文化を育てる姿勢を学んでほしい画家です。